2019年度　事業所における自己評価結果公表用（児童発達支援）　《集計表》

事業所名：　チャイルドハート唐津

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	取組状況・改善目標	はい	どちらともいえない	いいえ
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか		3	3	適切ではあるが、利用人数や活動量によっては狭いと感じることがある。全体を見渡せるスペースとなっているが、安全面での配慮としては机やラックの配置やサイズについて工夫が必要。床が冷たすぎて素足で過ごすには冬は辛いところがある。	0%	50%	50%
	2	指導員の配置数は適切であるか	6			配置基準より常に多くの職員を配置している。見守りや支援の必要性の高い子ども多く利用する日は、特に個別活動の対応において不足感を感じることがあるので、さらにきめ細かい配置計画が必要である。	100%	0%	0%
	3	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリヤフリー化や情報伝達等の配慮が適切になされているか	6			その都度出来る限りの配慮は行っているが、利用者の組み合わせにより不十分な日がある。クールダウンなどを行う場合は場所を考えなければならないことも多い。	100%	0%	0%
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	6			衛生管理については問題ない。安全対策についてはマット等の剥がれがないか確認などを定期的に行う。	100%	0%	0%
業務改善	5	業務改善を進める為のPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	3	3		祝日も開所している関係で、非常勤職員も含めて職員全員での会議やミーティングが極めて難しい状況である。	50%	50%	0%
	6	保護者向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者の意向等を把握し、業務改善につなげているか	6			保護者向けの評価表やアンケートは職員会議等で議題として職員間全体での周知を図るようにしている。また担当を決め改善に尽くせるようにしている。	100%	0%	0%
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	6			ホームページを利用して公開する。	100%	0%	0%
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			6	第三者による外部評価については今後検討していく。	0%	0%	100%
	9	職員の資質向上のため、研修の機会を確保しているか	6			チャイルドハート全体での研修には1名は参加をするよう心掛けている。内部研修も少ないが実施している。	100%	0%	0%
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成しているか	4	2		利用開始時には必ずアセスメントを行っているが、その後の頻度が少ないと思われる。今後はアセスメントの頻度をあげて、個別支援計画書作成に活かしていきたい。	67%	33%	0%
	11	子どもの状態と適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	1	5		統一したアセスメントツールを使い、全体的に継続して使うことができてきている。	17%	83%	0%
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す内容から子どもの	6			しっかりと一人一人の特性、情緒などを考慮し計画書を制作することができている。	100%	0%	0%
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	6			しっかりと計画に会った活動を考えスタッフ全員で行うことができている。	100%	0%	0%
	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか	6			児童発達支援管理責任者が統括する中で、複数名の職員が関わりながら活動プログラムの立案と実施に当たっての準備を行っている。	100%	0%	0%
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	6			毎月工夫してプラグラムを作成している。但し、プログラムやイベントによる契約曜日以外の利用が多くなったため現在は契約曜日にて利用をお願いしている状況である。	100%	0%	0%
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成しているか	6			個別活動と集団活動（活動プログラム）を時間配分し、日々組み合わせている。個別活動への職員の関わり方（支援、声かけ、見守り）については組織的かつ計画的にその方法を決定し、職員全員に周知している。	100%	0%	0%
	17	支援開始前に職員間で必ず打合せをし、その日の行われる支援内容や役割分担について確認しているか	6			毎日ミーティングを行い、参加できなかった職員には議事録で確認してもらっている。その日の現場状況により役割分担を行っている。長期休暇時の開始前打合せは時間的な制約があって難しいのが現状である。非常勤職員の場合、確認できない時もあるので、その日の責任者を決めて、支援内容は役割分担の情報共有に努める。	100%	0%	0%
	18	支援終了後には職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか	6			シフト制ゆえに全員が支援終了後に揃わないので難しいのだが、日々の活動記録表という書式を利用して支援の振り返り、気づいた点を共有している。この記録表は常勤職員は全員回覧し目を通しているが、非常勤職員には徹底されていないので、今後は非常勤職員にも勤務日の利用者情報の確認を促していく。	100%	0%	0%
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	6			利用者一人ひとりの活動記録を、その日関わった職員全員で記録し、情報共有できる体制は出来ている。	100%	0%	0%
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	2	4		6ヶ月に1回は実施。	33%	67%	0%
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	5	1		公休やシフトの関係で必ずしも最も相応しい者が参画できるわけではないが、そのように配慮はしている。	83%	17%	0%
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか		6		今後連携をとっていきたいと検討中である。	0%	100%	0%
	23	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合） 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか			6	医療的ケアが必要な児童は利用があっていない。	0%	0%	100%

関係機関や保護者との連携	24	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合） 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか			6	医療的ケアが必要な児童は利用があっていない。	0%	0%	100%
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	6			保育園、幼稚園や子ども園ともしっかりと情報共有できている所もあるが、できていない所もある。今後しっかりと情報共有していきたい。	100%	0%	0%
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	6			移行支援としての情報共有はおこなっている。	100%	0%	0%
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	3	3		利用者によっては必要な助言を受けている。ご案内を頂ければ研修にも参加している。	50%	50%	0%
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	6			おでかけ体験等の活動を通じて、間接的に障害のない子どもと触れ合う機会はあるが、積極的にそのような場を設けてはいない。ガイドラインの方針に反するが、保護者の方のご意見でも障害のない子との交流を望まない声も多い。少しずつ触れ合いの場を多く持てるような機会を作っていきたいとは思う。	100%	0%	0%
	29	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	6			定期的に開催される協議会へはしっかりと参加をすることができている。	100%	0%	0%
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	6			子どもの状況を必要に応じて伝え合っている。またデイ日誌、連絡ノート、送迎時の面談等で情報共有を図る仕組みもできているが、課題について共通理解をもつに至ってはいない。今後は課題とその解決方法を共有する意識をもって情報共有を図っていきたい。	100%	0%	0%
	31	保護者の子どもへの対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレントトレーニング等）の支援を行っているか		6		ペアレントトレーニングの情報提供は行った。県や市から保護者向けの情報の案内を頂いた場合には基本的にそのまま情報は提供している。	0%	100%	0%
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担額等について丁寧な説明を行っているか	6			利用契約の締結時には、利用規約、運営規程、支援の指針と具体的な内容、利用者負担額や上限額管理の仕組みと利用方法、利用のしおりを用いた具体的な利用方法まで懇切丁寧に説明を行っている。	100%	0%	0%
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	6			しっかりと個別支援計画書を保護者様へ説明をしきちんと同意を得ている。	100%	0%	0%
	34	定期的に保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	6			ご相談頂ければ全て真摯に対応している。担当者一人では適切な助言が出来ない場合は、事業所として適切な回答を模索した上でアドバイスをお返しいている。	100%	0%	0%
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか		2	4	3ケ月に1回の頻度で保護者会をしたいと考えております。継続して出来るように努力をしていきたいと思っております。	0%	33%	67%
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合は迅速かつ適切に対応しているか	6			迅速かつ適切を旨として対応にあたっている。	100%	0%	0%
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか		6		会報等は今作成中である。保護者様への発信はブログ等で行っている。	0%	100%	0%
	38	個人情報の取扱いに十分注意しているか	6			個人情報が記載されている文書は鍵付きのロッカーで保管し、それら文書の廃棄にはシュレッターを使うなど、個人情報の取扱には注意している。	100%	0%	0%
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	6			配慮していると思う。利用頻度が少なく、保護者様からの情報発信がない場合でも、事業所として積極的に相互コミュニケーションを取るべく配慮や環境づくりをしていきたい。	100%	0%	0%
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか			6	地域の方を招待しての活動はまだ行っていない。今後開催を検討中である。	0%	0%	100%
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか		6		保護者様に対しては周知できていない。今後は保護者会などを活用して説明をしっかりとしていきたいと思う。	0%	100%	0%
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか		6		定期的に避難訓練を実施している。今後は通報訓練や避難所まで実際に避難したりも計画している。	0%	100%	0%
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか	6			保護者様からの伝達があればしっかりとそのことをスタッフ間で情報共有を行っている。	100%	0%	0%
	44	アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	6			指示書、保護者の申告に基づいて対応している。但し、常に医師の指示書の提出を求めていないので、保護者からの指示や事業所としての調査に基づいて対応している。	100%	0%	0%
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	6			共有している。	100%	0%	0%
	46	虐待を防止する為、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	6			研修会を事業所で行っていただきスタッフは受講することができている。受講できていなかったスタッフへは内部研修として伝達講習をしている。	100%	0%	0%
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	6			身体拘束の必要性が低い利用者ばかりで、そのことを事業所内で議論する必要性が乏しいのが現状である。	100%	0%	0%

2019年度　自己評価表の公表

《集計表》

		チェック項目	取組状況・改善目標	はい	どちらともいえない	いいえ
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	適切ではあるが、利用人数や活動量によっては狭いと感じることがある。全体を見渡せるスペースとなっているが、安全面での配慮としては机やラックの配置やサイズについて工夫が必要。床が冷たすぎて素足で過ごすには冬は辛いところがある。		3	3
	2	指導員の配置数は適切であるか	配置基準より常に多くの職員を配置している。見守りや支援の必要性の高い子ども多く利用する日は、特に個別活動の対応において不足感を感じることがあるので、さらにきめ細かい配置計画が必要である。	6		
	3	常時見守り等が必要な子どもが利用する場合には通常より多い指導員配置がなされているか	長期休暇中のように長時間の対応時、トイレ介助時や調理等の活動時には更なる指導員増員が必要と考える。	6		
	4	指導訓練室内は個々の子どもの状態に配慮した環境整備が行われているか	その都度出来る限りの配慮は行っているが、利用者の組み合わせにより不十分な日がある。クールダウンなどを行う場合は場所を考えなければならないことも多い。		4	2
	5	事業所内の安全対策及び衛生管理は適切になされているか	衛生管理については問題ない。安全対策についてはマット等の剥がれがないか確認などを定期的に行う。	4	2	
業務改善	6	業務改善を進める為のPDCAサイクルに、広く職員が参画しているか	祝日も開所している関係で、非常勤職員も含めて職員全員での会議やミーティングが極めて難しい状況である。	3	3	
	7	保護者向け評価表、アンケートなどを利用して保護者の意向等を把握し、業務改善につなげているか	保護者向けの評価表やアンケートは職員会議等で議題として職員間全体での周知を図るようにしている。また担当を決め改善に尽くせるようにしている。	6		
	8	この自己評価の結果を、ホームページ等で公開しているか	ホームページを利用して公開する。	6		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	第三者による外部評価については今後検討していく。			6
	10	職員の資質向上のため、研修の機会を確保しているか	チャイルドハート全体での研修には1名は参加をするよう心掛けている。内部研修も少ないが実施している。	6		
適切な支援の提供	11	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成しているか	利用開始時には必ずアセスメントを行っているが、その後の頻度が少ないと思われる。今後はアセスメントの頻度をあげて、個別支援計画書作成に活かしていきたい。	4	2	
	12	子どもの状態と支援に対しての進捗を把握するために、統一したアセスメントツールを継続的に使用しているか	統一したアセスメントツールを使い、全体的に継続して使うことができてきている。	1	5	
	13	活動プラグラムの立案を必要に応じてチームもしくは複数名の職員で行っているか	児童発達支援管理責任者が統括する中で、複数名の職員が関わりながら活動プログラムの立案と実施に当たっての準備を行っている。	6		
	14	子どもが楽しんでプログラムに取り組めるよう工夫しているか	毎月工夫してプラグラムを作成している。但し、プログラムやイベントによる契約曜日以外の利用が多くなったため現在は契約曜日にて利用をお願いしている状況である。	6		
	15	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせているか	個別活動と集団活動（活動プログラム）を時間配分し、日々組み合わせている。個別活動への職員の関わり方（支援、声かけ、見守り）については組織的かつ計画的にその方法を決定し、職員全員に周知している。	6		
	16	支援開始前に職員間で必ず打合せをし、その日の支援内容や役割分担を確認いているか	毎日ミーティングを行い、参加できなかった職員には議事録で確認してもらっている。その日の現場状況により役割分担を行っている。長期休暇時の開始前打合せは時間的な制約があって難しいのが現状である。非常勤職員の場合、確認できない時もあるので、その日の責任者を決めて、支援内容は役割分担の情報共有に努める。	6		
	17	支援終了後職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか	シフト制ゆえに全員が支援終了後に揃わないので難しいのだが、日々の活動記録表という書式を利用して支援の振り返り、気づいた点を共有している。この記録表は常勤職員は全員回覧し目を通しているが、非常勤職員には徹底されていないので、今後は非常勤職員にも勤務日の利用者情報の確認を促していく。	6		
	18	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	利用者一人ひとりの活動記録を、その日関わった職員全員で記録し、情報共有できる体制は出来ている。	6		
	19	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断しているか	6ヶ月に1回は実施。	6		
	20	ガイドライン総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っているか	厚労省のガイドラインに示されている基本活動を指針として、活動プログラムを作成している。	2	4	

関係機関や保護者との連携	21	相談支援事業所の担当者会議にその子どもの状況に精通した最も相応しい者が参画しているか	公休やシフトの関係で必ずしも最も相応しい者が参画できるわけではないが、そのように配慮はしている。	5	1	
	22	学校との情報共有（行事予定、下校時刻）連絡調整（送迎時の対等等）を適切に行っているか	学校情報は保護者を通じて保護者との間で行っている（学校から配付されたプリント類など）。学校に送迎にうかがった時には、出来る限り先生とお話しする時間を取って、情報共有を図っている。	6		
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	利用開始時の児童発達支援管理責任者の業務として位置づけ、相互理解を図っていきたい。	6		
	24	学校卒業後に障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供するなどしているか	まだ卒業した子どもが一人なので評価しづらいところではある。今後はそのように努めたい。		6	
	25	専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	利用者によっては必要な助言を受けている。ご案内を頂ければ研修にも参加している。	2	4	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもとと活動する機会があるか	お買物体験やおでかけ体験等の活動を通じて、間接的に障害のない子どもと触れ合う機会はあるが、積極的にそのような場を設けてはいない。ガイドラインの方針に反するが、保護者の方のご意見でも障害のない子との交流を望まない声も多い。少しずつ触れ合いの場を多く持てるような機会を作っていきたいとは思う。	6		
	27	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解をもっているか	子どもの状況を必要に応じて伝え合っている。またデイ日誌、連絡ノート、送迎時の面談等で情報共有を図る仕組みもできているが、課題について共通理解をもつに至ってはいない。今後は課題とその解決方法を共有する意識をもって情報共有を図っていきたい。	6		
	28	保護者の子どもへの対応力の向上を図る観点から、家庭での対応方法などについて助言等の支援を行っているか	保護者の方からご相談があれば必ず事業所内で検討した上で、アドバイスをしている。	6		
	29	保護者の子どもへの対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレントトレーニング等の支援に関する情報提供を行っているか	ペアレントトレーニングの情報提供は行った。県や市から保護者向けの情報の案内を頂いた場合には基本的にそのまま情報は提供している。		6	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担額等について丁寧な説明を行っているか	利用契約の締結時には、利用規約、運営規程、支援の指針と具体的な内容、利用者負担額や上限額管理の仕組みと利用方法、利用のしおりを用いた具体的な利用方法まで懇切丁寧に説明を行っている。	6		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援をおこなっているか	ご相談頂ければ全て真摯に対応している。担当者一人では適切な助言が出来ない場合は、事業所として適切な回答を模索した上でアドバイスをお返しいている。	6		
	32	保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	3ケ月に1回の頻度で保護者会をしたいと考えております。継続して出来るように努力をしていきたいと思っております。		2	4
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	迅速かつ適切を旨として苦情対応にあたっている。	6		
	34	個人情報に十分注意しているか	個人情報が記載されている文書は鍵付きのロッカーで保管し、それら文書の廃棄にはシュレッターを使うなど、個人情報の取扱には注意している。	6		
	35	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	配慮していると思う。利用頻度が少なく、保護者様からの情報発信がない場合でも、事業所として積極的に相互コミュニケーションを取るべく配慮や環境づくりをしていきたい。	6		
非常時等の対応	36	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	保護者様に対しては周知できていない。今後は保護者会などを活用して説明をしっかりとしていきたいと思う。		6	
	37	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	定期的に避難訓練を実施している。今後は通報訓練や避難所まで実際に避難したりも計画している。		6	
	38	虐待を防止する為、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	研修会を事業所で行っていただきスタッフは受講することができている。受講できていなかったスタッフへは内部研修として伝達講習をしている。	6		
	39	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うのかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、支援計画に記載しているか	身体拘束の必要性が低い利用者ばかりで、そのことを事業所内で議論する必要性が乏しいのが現状である。	6		
	40	アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	指示書、保護者の申告に基づいて対応している。但し、常に医師の指示書の提出を求めていないので、保護者からの指示や事業所としての調査に基づいて対応している。	6		
	41	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	共有している。	6		